地歴公民(世界史)　早稲田大学　文化構想学部　1/2

＜全体分析＞

試験時間　60 分

解答形式

マーク式･記述式

分量･難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

昨年度は大問８題であったが、今年度は大問５題となった。全体の総解答数は、昨年度は 42 であったが、今年度は 33 と減少した。そのうち記述式解答の数は、一昨年度は 16 個、昨年度は 17 個、今年度は 11 個と推移している。正誤判定問題の数は、一昨年度は 16 個、昨年度は 15 個、今年度は 17 個で、昨年度よりも増加した。語句を記述させる問題は、一部難問も含まれているがほぼ例年通りの難易度であった。難易度は昨年度とほぼ同様であったが、４年連続で出題されていた史料問題が出題されなかったため、難易度についてはやや易化とした。

出題の特徴

最後の大問で図版を用いた文化史が出題されるのは、例年通り。

その他トピックス

昨年度が大問８題であったように、本学部は小問数の少ない大問を数多く並べる形式が定番であったが、今年度は大問５題と減少し、それに伴って総解答数も昨年度の 42 から 33 へと減少した。また、昨年度の新傾向として、正誤判定問題で解答を二つ選ぶ形式の問題が２問出題されたが、今年度は３問に増加した。一方で、４年連続で出題されていた史料問題は出題されなかった。大問Ⅴで出題された、本学部の定番となる写真を用いた文化史問題では、19 世紀のヨーロッパの美術作品に関連する事項が出題され、絵画の特色について問う正誤問題が出題された。大問Ⅰでも昨年度と同様に図版を用いた問題が出題され、最初と最後の大問で図版を用いた問題を出題するのは、今後本学部の傾向となるのか注目したい。なお、大問Ⅱの設問８で大西洋憲章の発表と日本の対米宣戦布告の時系列を問う問題が出題されたが、直前講習の「早慶大世界史テスト」の第１講大問４で同様の主旨の問題が出題されており、受講した生徒には有利に働いたであろう。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容･答案作成上のポイントなど)	難易度
Ⅰ	マーク式 記述式	世界各地の遺跡	資料Ａはマチュ=ピチュ、Ｂはラスコーの洞窟壁画、Ｃはペルセポリス、Ｄはアンコール=ワットである。設問２は先史時代についての設問。ラスコーの洞窟壁画は旧石器時代末期に描かれたものであり、アに関してはポリネシア地域に人類が住み着いたのは高校教科書では約 3000 年前とされているため誤文。ウの石臼は新石器時代に制作されたものであるため誤文。設問５は、資料Ａ～Ｄを北から順番に並べると、Ｂ→Ｃ→Ｄ→Ａとなる。したがって、三番目に位置するアンコール=ワットが所在するカンボジアで 1970 年に起こった、シハヌークがロン=ノルによって追放されたクーデタを想起したい。	やや難
Ⅱ	マーク式 記述式	ヨーロッパ史上の政治指導者	設問７の「国民保険法」を記述させる問題はやや細かい。設問８のウは、大西洋憲章の発表が 1941 年８月、日本の対米宣戦布告が 1941 年 12 月となるため時系列が逆である。設問９はアがベルリンではなくアメリカのフルトン、イはイーデンではなくアトリー、エがノーベル平和賞ではなくノーベル文学賞である。	やや難
Ⅲ	マーク式 記述式	中国通貨史	設問１はイとエは受験世界史の基礎知識で消去できるが、アとウの判別で戸惑った受験生も多かったのではないか。アの「至正宝鈔」は明代に発行された通貨である。ウの「開元通宝」は玄宗の開元年間に発行された通貨ではないので注意。設問３の「不換」を記述させる問題は読解力が求められており、やや難しい。設問４は正答にたどり着くためには、受験生が苦手としがちな経済史の正確な知識が必要であり差がつく。現代の経済史は近年頻出テーマである。設問５のイは 15 世紀ではなく 16 世紀。	やや難

© 河合塾　2023 年

Ⅳ	マーク式 記述式	インド洋における海上交易	設問３の「ペルシア湾」を記述させる問題では、地理的な知識の理解が問われた。設問４のウは太平洋ではなく大西洋。設問７のアはヒヴァ=ハン国ではなくクリム=ハン国。イはセリム１世ではなくスレイマン１世。ウはレパントの海戦にオスマン朝は敗北している。設問６はアを正文と想定した問題だと思われる。しかし、スエズ運河の開通が 1869 年、エジプトの財政が破綻したのが 1876 年であり、「運河が開通する頃には、工事の経費のためにエジプトの財政は破綻した」という文章が正しいと言えるのかどうか疑問が残る。	標準
Ⅴ	マーク式 記述式	19 世紀の西洋美術史	今年度も、文化構想学部で頻出である複数の作品を用いたヨーロッパ美術史が問われた。絵画の様式における地域や時期の区別を明確にしておきたい。設問１のアはゴヤの「1808 年５月３日」、イはドラクロワの「民衆を導く自由の女神」、ウはドラクロワの「キオス島の虐殺」、エはダヴィドの「ホラティウス兄弟の誓い」。設問４は 19 世紀後半の作品であることからウとエは消去できるが、アとイの判別が難しい。設問３の「白いドレスを着た女性が平和を意味する小枝を持ち座っている」という部分から、図Bが平和を「象徴」した絵であることを読み取り、アが解答であると判断したい。設問５の「ダダイズム」を記述させる問題は難問。	やや難

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

全体的には、早稲田大学の他学部に比べれば平易な設問が多いとされていたが、近年は難化の傾向が続いている。今年度、定番である史料問題が出題されなかったことから、昨年度の難易度と比べて全体ではやや易化としたが、史料問題への対策は必須である。文化史では写真を用いてやや難の事項を書かせることもあるので図版にも注意。単なる年号暗記ではなく、時代順に事項を並べ替える感覚や世紀を意識した学習を心掛けたい。

© 河合塾　2023 年